

三瀬夏之介個展「ぼくの神さま」

青森公立大学国際芸術センター青森



三瀬夏之介《だから僕はこの一瞬を永遠のものにしてみせる》和紙に墨、胡粉、アクリル、インクジェットプリントのコラージュ、272×1456cm、2010年（部分）
©MISE Natsunosuke, Courtesy of imura art gallery, photo: SENO Hiromi

展覧会名	三瀬夏之介個展 ぼくの神さま
日時	4月27日(土)～6月23日(日)午前10時～午後6時 会期中無休、入場無料
会場	国際芸術センター青森 ギャラリーA、B
アーティスト	三瀬夏之介
主催	青森公立大学国際芸術センター青森
協力	イムラアートギャラリー、東北芸術工科大学

お問い合わせ

青森公立大学国際芸術センター青森

〒030-0134 青森市合子沢山崎 152-6

TEL: 017-764-5200 FAX: 017-764-5201 ホームページ: <http://www.acac-aomori.jp>

担当学芸員: 近藤由紀 yukikondo@acac-aomori.jp



三瀬夏之介《だから僕はこの一瞬を永遠のものにしてみせる》和紙に墨、胡粉、アクリル、インクジェットプリントのコラージュ、272×1456cm、2010年 ©MISE Natsunosuke, Courtesy of imura art gallery, photo: SENO Hiromi

「日本画」という言葉はごく一般的に使われ、おそらく中学生でも知っている言葉でしょう。そして、思い浮かべるのは、屏風や掛け軸に描かれているような、あるいは浮世絵のような、平面的な、人物や植物、動物や風景が描かれている絵ではないでしょうか。そんな一般的な「日本画」のイメージを持って本展にいらっしゃる方は、三瀬さんの作品の大きさや量、そして作品が放つエネルギーに「日本画」の既成概念が吹き飛ぶことでしょう。

ギャラリーAには壁面いっぱいに巨大な絵画が展示されます。その中の一つ、全長約 50 メートルの作品《奇景》は、歩みを進めるごとに絵巻物のように次々と場面が表れます。また、《空虚五度》は墨で描かれており、遠くから見ると煙や霞のような灰色のグラデーションのまとまりに見えます。しかし近くで見ると、山や自然の風景だけではなく、飛行機や何かの建築物が描かれていたりします。その他の作品にも、巨人や UFO、恐竜のようなものがいたりします。また、画面に穴が空いていたり、表面がテラテラと光っていたり、文字が書かれた何かの紙が貼られていたり、素材の様々な表情も見付けることができます。そもそも三瀬さんの作品は、四角い画面ではありません。ある時は楕円形だったり、山や岩や雲のような、様々な想像を誘う形をしていることもあります。本展で展示される作品も、画面からはみ出す突起物があったり、こより状の房が垂れていたりします。このように、ギャラリーA では様々なモチーフや形を内包する作品によって、自分だけの物語を想像したり、具象と抽象のはざまを行ったり来たりするような鑑賞体験ができるでしょう。

ギャラリーBには大きな作品が旗のように掲げられています。こちらでも墨で描かれ、小さな紙片をつなぎ合わせて四角い画面となっています。そして、反対側の面には金箔が貼られ黄金の画面が広がります。灰色と金色の鮮やかなコントラストは、表と裏、内と外といった、物事の二面性を想起させるようです。また、ギャラリーB には三瀬さんのアトリエを再現したコーナーも設けられます。

奈良に生まれ、学生時代を京都で過ごし、イタリアでの研修を経て現在は山形に住む三瀬さんは、自分が住む土地と自分自身の関わりや、南北に長い列島である日本の多様性を感じながら、「日本画」とは「日本」とは何か、ということを探究し続けています。本展を通じて三瀬さんの思考の一片を感じて頂けたら幸いです。

【作家略歴】

主な個展

- 2007 「ARKO 2007」、大原美術館（岡山）
- 2008 「J」、イムラアートギャラリー(京都)
- 2009 「冬の夏」、佐藤美術館（東京）
「シナプスの小人」、新宿高島屋（東京）
「問月台」、中京大学 C・スクエア（名古屋）
「笑月」、高島屋（京都）
- 2010 「肘折幻想」、イムラアートギャラリー（京都）
「ぼくの神さま」、イムラアートギャラリー（東京）
「だから僕はこの一瞬を永遠のものにしてみせる」、第一生命ギャラリー（東京）
- 2011 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）
- 2013 平塚市美術館（神奈川）



主なグループ展

- 2005 「日本画ジャック」、京都文化博物館（京都）
「『絵図』と『絵画』との間で」、京都造形芸術大学 ギャルリオープ（京都）
- 2006 「MOT アニュアル 2006 No Border『日本画』から／『日本画』へ」、東京都現代美術館（東京）
「美術館ワンダーランド・夏の思い出」、豊科近代美術館（長野）
「第3回東山魁夷記念・日経日本画大賞展」、ニューオータニ美術館（東京）
- 2007 「平成17・18年度文化庁買上優秀美術作品披露展」、日本芸術院会館（東京）
「日本画滅亡論」、中京大学 C・スクエア（名古屋）
- 2008 「所蔵作品展・近代日本の美術」、東京国立近代美術館（東京）（'11）
「富士山・近代に展開した日本の象徴」、山梨県立美術館（山梨）
「大原美術館展 珠玉の東西名画コレクション」、金沢21世紀美術館（金沢）
- 2009 「現代の水墨画2009」、富山県水墨美術館（富山）、練馬区美術館（東京）
「VOCA 2009 - 新しい平面の作家たち -」、上野の森美術館（東京）
「紙 - 神 Japanese Contemporary Art on Paper」、ドレスデン州立版画素描館（ドイツ）
- 2010 「サラリーマンコレクター30年の軌跡 - 山本冬彦コレクション」、佐藤美術館（東京）
「第一生命ギャラリー所蔵作品展 I-VOCA 展 2007～2009 受賞作品 -」、第一生命ギャラリー（東京）
- 2011 「桃源万歳！-東アジア理想郷の系譜-」、岡崎市美術博物館(愛知)
「ZIPANGU 展-31人の気鋭作家が切り拓く現代日本のアートシーン。」、日本橋高島屋(東京)／大阪高島屋(大阪)／京都高島屋(京都)
「会津・漆の芸術祭 2011 ～東北へのエール～」、会津若松市、喜多方市(福島)
「奈良・町家の芸術祭 HANARART」（奈良）
「第5回とよはしトリエンナーレ 星の信吾商店」、豊橋市美術博物館（愛知）
「現代絵画の展望 24の時の瞳」、旧新橋停車場 鉄道歴史展示室（東京）



《空虚五度》雲肌麻紙、墨、胡粉、272×1456cm、2012年 ©MISE Natsunosuke, Courtesy of imura art gallery, photo: SENO Hiromi

【関連イベント】

■オープニング&アーティスト・トーク

作品や制作のお話を伺います。

4月27日（土）14：00－15：00

会場：展示棟ラウンジ

※申込不要、どなたでもご参加いただけます。参加希望の方は開始時刻にラウンジにお越しください。

■ワークショップ「水墨マンガに挑戦！」

日本画で使われる技法の一つであり、三瀬さんが新作でも用いている水墨画の技法と日本のマンガの表現方法は、実は共通する部分があります。このワークショップでは、水墨でマンガの模写に挑戦します。

5月19日（日）10：00－16：00

会場：創作棟ワークショップスタジオ

定員：20名、要申込・先着順

参加費：500円

対象：中学生以上～大人

持ち物：墨、硯、好きなマンガの一場面（お持ちでない方は貸出します）

■フルート×チェロコンサート「巡る音は突き抜ける風のように」

三瀬作品をイメージして竹澤聡子が選曲した楽曲をフルートとチェロで演奏します。

5月26日（日）14：00～15：00（開場13：30～）

演者：竹澤聡子（フルート）、藤沢俊樹（チェロ）

演奏曲「笛吹き、廃墟をあやす」（F.ブーランク）、「エア」（武満徹）、「パッサカリア」（J.ハルヴォルセン）ほか。

会場：展示棟ギャラリーA

料金：無料

※申込不要・座席数100席・観覧ご希望の方は開始時刻にギャラリーAにお越しください。

■クロージング・トーク「東北画とは何か？」

2009年より「東北画は可能か？」というタイトルのもと、東北芸術工科大学にて、教育の一環あるいは日本画についての考察の一環として行なわれている東北における美術を考えるチュートリアル活動についてのお話を伺います。

6月23日（日）14：00～16：00

出演：三瀬夏之介×ゲスト（予定）

会場：展示棟ラウンジ

※申込不要、どなたでもご参加いただけます。参加希望の方は開始時刻にラウンジにお越しください。

■ギャラリーツアー

・レギュラーツアー

作品の解説を聞きながら展覧会を体験します。

5月5日（日）、6月15日（土）14：30－15：30

・発見ツアー

参加者のみなさんでお話しながら作品の魅力を発見します。

5月12日（日）、6月1日（土）14：30－15：30

※申込不要、どなたでもご参加いただけます。参加希望の方は開始時刻にギャラリーA受付前にお越しください。